

2025（令和7）年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

1 法人の概要

(1) 基本情報

名称：学校法人 海星女子学院

住所：兵庫県神戸市灘区青谷町 2 丁目 7 番 1 号

電話：(078) 801-2277 (代表)

FAX：(078) 801-5190

HP：https://www.kobekaisei.ed.jp

(2) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神とし、キリスト教の理念に基づいて設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会はローマに本部を置く世界宣教を使命としているカトリック女子修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長 Sr マリー・デュ・ムスチュ・ド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951 年（昭和 26 年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観に基づく全人教育の場の実現を目指しています。

(3) 学校法人の沿革

1951（昭和 26）年

学校法人海星女子学院設立認可

海星女子学院小学校・海星女子中学校・海星女子高等学校設置

1952（昭和 27）年

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園設置

1953（昭和 28）年

熊本聖母愛児幼稚園設置

1954（昭和 29）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール設置

1955（昭和 30）年

海星女子学院短期大学英語科設置

海星女子中学校・海星女子高等学校を海星女子学院中学校・海星女子学院高等学校に名称変更

1962（昭和 37）年

海星女子学院短期大学家政科設置

1964（昭和 39）年

海星女子学院短期大学を神戸海星女子学院短期大学に名称変更

福岡海星女子学院中学校・高等学校設置

(福岡) マリア幼稚園を法人統合

海星女子学院小学校・中学校・高等学校を神戸海星女子学院小学校・中学校・高等学校に
名称変更

1965（昭和 40）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科設置

1966（昭和 41）年

神戸海星女子学院短期大学英語科廃止

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園を神戸海星女子学院マリア幼稚園に名称変更

1968（昭和 43）年

福岡海星女子学院附属小学校設置

1980（昭和 55）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール廃止

1984（昭和 59）年

福岡海星女子学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校を法人分離

1998（平成 10）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科を英語英米文学科、フランス語フランス
文学科に名称変更

熊本聖母愛児幼稚園を法人分離

2000（平成 12）年

神戸海星女子学院短期大学廃止

2004（平成 16）年

神戸海星女子学院大学文学部英語英米文学科、フランス語フランス文学科を国際英語メ
ディア学科、心理こども学科に改組。

2008（平成 20）年

神戸海星女子学院大学文学部国際英語メディア学科、心理こども学科を現代人間学部英
語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科、心理こども学科に改編

2012（平成 24）年

神戸海星女子学院大学現代人間学部観光ホスピタリティ学科を募集停止

2014（平成 26）年

神戸海星女子学院大学現代人間学部英語キャリア学科を英語観光学科に名称変更

2024（令和 6）年

神戸海星女子学院大学を募集停止

(4) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
神戸海星女子学院大学	昭和 40 年 1 月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)
神戸海星女子学院高等学校	昭和 26 年 3 月	全日制 (普通科)
神戸海星女子学院中学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院小学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和 27 年 1 月	—

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2025 年 5 月 1 日現在) (単位: 人)

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
神戸海星女子学院大学	現代人間学部	0	0	190	44
	英語観光学科	0	0	90	10
	心理こども学科	0	0	100	34
神戸海星女子学院高等学校		150	141	450	394
神戸海星女子学院中学校		150	139	450	438
神戸海星女子学院小学校		50	39	300	302
神戸海星女子学院マリア幼稚園		100	90	300	279

(6) 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
神戸海星女子学院大学	98.4	82.4	58.9	42.1	34.0
神戸海星女子学院高等学校	93.3	91.1	87.8	86.0	87.6
神戸海星女子学院中学校	95.6	96.0	97.8	99.1	97.3
神戸海星女子学院小学校	98.0	101.3	101.3	104.3	100.7
神戸海星女子学院マリア幼稚園	96.3	94.0	92.7	92.7	93.0

(7) 役員の概要

ア 役員名簿

(2025 年 5 月 1 日)

定員 8 名 監事 2 名

区分	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	森田 和子	令 6.10.16	常勤	
理事	石原 敬子	令 3.4.1	常勤	大学長
理事	野手 数弘	令 6.4.1	常勤	中学校・高等学校長
理事	鈴木 良孝	平 31.4.1	常勤	小学校長
理事	元山 一則	令 4.4.1	常勤	幼稚園長
理事	芝山 豊	令 5.4.1	常勤	カトリックセンター長
理事	村田 博	令 2.4.1	非常勤	外部理事
理事	井上 幸一	平 25.4.1	常勤	法人事務局長
監事	荒井 俊朗	平 28.4.1	非常勤	
監事	仲尾 彰記	令 7.1.1	非常勤	

(2025 年 5 月 28 日)

定員 7 名 監事 2 名

区分	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	森田 和子	令 7.5.28	常勤	
理事	石原 敬子	令 7.5.28	常勤	大学長
理事	野手 数弘	令 7.5.28	常勤	中学校・高等学校長
理事	鈴木 良孝	平 7.5.28	常勤	小学校長
理事	元山 一則	令 7.5.28	常勤	幼稚園長
理事	芝山 豊	令 7.5.28	常勤	カトリックセンター長
理事	村田 博	令 7.5.28	非常勤	外部理事
監事	仲尾 彰記	平 7.5.28	非常勤	
監事	横田 和男	令 7.5.28	非常勤	

イ 責任限定契約の状況

私立学校法に従い、令和2年4月1日より責任限定契約を締結した。

- ・対象役員の氏名

非業務執行理事（村田博）、監事（荒井俊朗、仲尾彰記）

- ・契約内容の概要

非業務執行理事及び監事はその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金50万円と、役員報酬の2年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。

ウ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

私立学校法に従い、理事会決議により令和3年4月1日から役員賠償責任保険に加入した。

- ・保険者

東京海上日動火災保険株式会社

- ・被保険者

記名法人 学校法人海星女子学院

個人被保険者 理事、監事、評議員

- ・補償内容

役員（個人被保険者）に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等

記名法人に関する補償 社内調査費用、第三者委員会設置・活動費用

- ・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

- ・保険期間中総支払限度額

3億円

（8）評議員の概要

（2025年5月1日現在） 定員17名

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
井上 ふき子	中・高教頭	熊野 公子	
市川 憲子	中・高教頭	山田 喜美子	
芝山 豊	カリキュレーター長	森田 和子	
石倉 哲也	小学校教頭	村田 博	
石原 敬子	大学長		
野手 数弘	中学校・高等学校校長		

(2025 年 5 月 28 日) 定員 9 名

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	眞弓 孝弘	歯科医師
石倉 哲也	小学校教頭		
市川 憲子	中・高教頭		
三浦 智子			
峰地 有紀子			
竹内 昭彦	司祭		
道上 明	弁護士		
平岡 千里	社福) 神戸海星会 うみのほし理事長		

(9) 会計監査人の概要

(2025 年 5 月 28 日) 定員 1 名

氏名	就任年月日
八木 春作	令 7.5.28

- ・ 責任免除に関する決議等、責任限定契約、補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況

当会計監査人に対しては責任免除もしくは責任限定契約に関する決議は行っており、補償契約及び役員賠償責任保険は締結していない。

(10) 理事選任機関の概要

- ・ 構成等

当法人の役員、理事 8 名、監事 2 名

理事は以下に掲げる者とする。

ア 神戸海星女子学院大学長

イ 神戸海星女子学院高等学校長

ウ 神戸海星女子学院中学校長

エ 神戸海星女子学院小学校長

オ 神戸海星女子学院マリア幼稚園長

カ 評議員のうちから評議員会において選任されたもの 3 名

キ 学識経験者又は有識者のうちから理事会において選任したもの 1 名

(11) 教職員の概要

(2025 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教 員	本務	1	9	23	26	21	17	97
	兼務	0	39	16	20	9	14	98
職 員	本務	6	8	3	2	1	2	22
	兼務	1	7	3	7	2	2	22

2 事業の概要

(1) 神戸海星女子学院大学

ア 広報活動

ホームページやSNSを通じて学内活動の発信を継続した。

イ 各学科の教育活動

(ア) 英語観光学科

5月に関西万博へのフィールドワークを実施し、3・4年次生の参加学生はパビリオンの展示内容やユニバーサルデザインの観点から各国の取り組みを分析・報告することで、大規模国際イベントの意義と構造への理解を深めた。さらに観光ゼミでは3年次生が淡路島においてフィールドワークを行い、アンケート及びインタビュー調査を通じて得られた知見を海星フェスティバルで発表するなど、学内外での学びの機会を創出することができた。キャリア教育に関しては、3年次生全員が学外インターンシップおよび教職関連イベントに参加し、他大学の学生とも交流しながら、各自の進路に応じた実践的な学びを得ることができた。

(イ) 心理こども学科

学生は3・4次年生の2学年になったが、学びが限定的にならないよう留意し、主体的に取り組むことができる環境を整えた。「海星子育てひろば」は、神戸市立八幡保育所に4回出向き、実地にて演習を行った。2024年度まで学内で実施していた「海星子育てひろば」との学びに遜色がないよう丁寧に指導を行なった。「海星フェスティバル」については、学生の中に運営をすることに対する覚悟と意思が確立されており、学生主体の学修成果発表の場が実現した。学修全般において、閉学を見据えた局面においても、専門的分野の教育の質を保つため、従来通りのルールに則り指導を行った。

(ウ) 教職課程

教員採用試験対策講座及び幼保就職対策講座、就職体験発表会を開催し、筆記試験・実技試験・面接試験に向けて集団及び個別指導を行った。

学校法人国際学園星槎大学との協定による特別支援教育免許取得課程を新たに1名が修了した。

ウ キャリア支援

2025 年度大学全体の就職率は 90%（英語観光学科:100%、心理子ども学科:87%）であった。就職支援プログラムとして 3 年次対象就職サポートプログラムを春学期に 5 回開催し、秋学期は個人面談を全員に実施した。また、学内において企業研究セミナーを実施し、ホテル、旅行や IT 企業の人事担当者によるセミナーと 4 年次生内定者からの就職活動体験発表会を行った。さらに、学生が自分たちのスケジュールで受講できるオンデマンドの資格取得支援講座（日商簿記 3 級、秘書検定 2 級など）を開講した他、保護者対象の個別面談も実施した。

エ 生涯教育、地域交流・貢献等

（ア）生涯学習講座

「英会話（初級・中級）」「フランス語会話（初級～準中級・中級）」「関西文化に育まれた文学」「フラを通してハワイの歴史と文化を学ぶ」「教科『音楽』」「英語発音講座 1・2」の 9 講座を開講した。

（イ）公開講座

本学専任講師の渡邊恵梨佳先生が講師を務め、「自己肯定感と心の健康～より良い自分探し～」と題して 11 月に実施した。

（ウ）学生関連の地域交流・貢献活動

本学学生の学習成果としては、児童養護施設でのサンタガールズ活動（クリスマス・プレゼント贈呈）、新聞への投稿文掲載（2 件）などがあった。また、クラブ活動としては、音楽部・Chorus Stella Maris・4 年次生有志の神戸文学館でのコンサート、Chorus Stella Maris のペガホールにおける Joint Concert での発表、創作部の六甲病院でのアートセラピーボランティアなどの活動（6 回）、キッズイングリッシュ・クラブの子ども英語教室（神戸市立住之江公民館：全 5 回）などがあった。

（エ）地域における教育・文化・福祉等の活動に関する事項

神戸市との連携講座である「こうべ生涯学習カレッジ」に加え、神戸市、宝塚市、芦屋市、などの行政や福祉施設からの要望に応え、専門的知識を広く社会に還元し、地域に貢献していった。

オ グローバル人材育成に向けた取組

留学相談を各学期に開催し、留学を検討している学生の相談に随時対応した。

カ キリスト教関連

(ア) キリスト教研修

3年次生は神戸布引ハーブ園で神父様によるアッシジの聖フランシスコについての講演を聞き、自然とキリスト教の繋がりを学んだ。また4年次生は2日間にわたり大塚美術館とポートピアホテルにて研修を行った。絵画を通じてキリスト教精神を学び、ホテルにおける研修では4年間のキリスト教に関わる学びを振り返り全体で分かち合う時間を持った。

(イ) 海星協力金

例年通り、学生より各学期に1名500円ずつ海星協力金として集め、年度末に「日本キリスト教海外医療協力会」「日本国際ボランティアセンター」等に寄付を送金した。

(ウ) サンタガールズ活動

校内での教科書リサイクル販売とサンタガールズによる大学祭等での募金活動により得られた収益を「サンタ募金」として、灘区内の児童養護施設3カ所の子ども達にプレゼントを届けた。

(エ) ミサの開催

学生・教職員対象のクリスマス・ミサ、4年次生対象の卒業感謝ミサ、また故小野礼子教授の追悼ミサを行った。

キ 学生支援

学生一人ひとりの考え・想いに向き合い、学生の小さな声に耳を傾けた結果、コモンルーム設置の雑誌の変更、卓球台の設置、お茶会の開催方法の改善などを果たした。

学外における主体的・協働的な学びの機会を推奨・支援したことにより、Chorus Stella Maris (コーラス部) は2024年度に引き続き5大学合同演奏会に参加、また音楽部と協働で文学館でのコンサートを実現させた。学生の自主的活動である大学祭は、従来の固定観念にとらわれず柔軟に形を変えて実施した。この自主的活動への支援は休部団体の復活にもつながり、年度末にはクラブ数は大学祭運営委員会を含め12団体に増えた。

そして、合理的配慮を申請した学生には、2025年度から新たに支援教員を一人ずつ配置し、月1回の面談でフィードバックや配慮内容の見直しに努め、丁寧な指導を実行した。

ク 自己点検・評価

学科・委員会毎に年度の達成目標を設定し、1年間を掛けてPDCAの点検を行い、報告書にまとめた。

ケ 教員の研究活動

第13回言語文化研究所 研究発表会をオンラインで開催した(本学言語文化研究所主催)。本学専任講師の佐伯瑠璃子先生及び非常勤講師の中植満美子先生が発表を行い、卒業生や本学退職教員、その他学外の研究者・教育関係者が参加して、活発な意見交換がなされた。

(2) 神戸海星女子学院中学校・高等学校

ア 中学校生徒募集と広報活動について

(中学校生徒募集)

2026年度入試において出願者数はA日程109名、B日程173名、受験者数はA日程105名、B日程167名であった。出願者数は昨年度と比べてA日程で6名増、B日程41名増、受験者数はA日程6名増、B日程42名増で、AB日程とも昨年度より増加した。一昨年度大幅に減少したA日程は微増であったが、B日程においてはこの数年間で最も多い受験者数となった。新たな入試方法としてC日程と3教科型社会、複数回受験による加点制度、英語資格利用者への優遇措置を設けた。C日程の出願者数は220名、受験者数は59名であった。

(大学入試結果)

2025年度の国公立大学合格者数は52名（現役36名）で、現役合格者数は昨年より1名増加し、総数も昨年の46名より6名増加した。旧帝国大学及びその他難関大学については、北海道大・一橋大・京都大・大阪大・神戸大で計21名（現役18名）、医学部医学科に関しては、国公立・現浪合わせて14名（延べ人数）であった。また早慶上智には10名、関関同立には150名（延べ人数）が合格した。卒業生の人数が116名であったことを考えると大変よく健闘した結果と言える。

(広報活動)

2025年度も教員による塾訪問を行った。また新たに加わった広報室長も積極的に塾訪問を行い、受験者数を増やすことができた。さらに昨年度から塾訪問代行サービス『エデュケーターサポーター』を利用し、教員では回りきれない遠方の教室や個別塾などを重点的に回っていただいた。また、尼崎、三田、吹田で校長による説明会を実施した。塾の各教室が主催する保護者対象の説明会にも参加した。

校外の相談会、私学連合会主催・業者主催の合同説明会はほぼ従来通り実施され、本校もできるだけ積極的に参加した。この数年近隣の女子校で行ってきた合同説明会を、昨年度は神戸女学院・甲南女子・海星の3校合同説明会として実施し、生徒の発表などが好評であった。また初めて行われたキリスト教主義の学校の説明会にも参加した。

校内では学院祭で多くの受験希望者に見学の機会を提供することができた。オープンスクールに関しても、体験授業や部活動体験、在校生による校内案内やポスターセッションなど、生徒と直接触れ合いながら学校生活を体験する機会を増やした。生徒広報班のメンバーによる海星すごろくや、制服を試着して写真撮影を行うなど、来場者を楽しませる工夫が随所に見られた。7月には夏の学校説明会を初めて実施し、食堂体験や弦楽アンサンブル部のコンサートも楽しんでいただいた。体育祭も事前予約を受け付け受験希望者に公開した。秋

には弦楽アンサンブル部によるオータムコンサートと2回の入試説明会、4回の学校見学会をすべて予約制で行った。学校に足を運んでいただく機会をできるだけ増やすことで、生徒たちが実際に活動する姿を見て本校の雰囲気を肌で感じていただくことができた。また校長による個別相談会も春から秋にかけて行われ、1日2組限定で校長との懇談や校内案内などの機会を設けた。

外部メディアを利用した広報は、例年通り受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。読売オンラインやみんなの中学情報口コミサイト等、ネット媒体を活用した広報活動に注力した。また、公式インスタグラムでは、生徒たちが生き生きと活動している姿を日々発信している。「真理と愛に生きる」という学院の理念を具体化するために、引き続き「学び続ける力を養う6年間」を掲げ、卒業後も社会で活躍できる生徒を育てる学校として広報活動を行っている。

イ 学納金等について

授業料に関しては中1から高3まで66万円である。2025年度卒業生については、教材費預かり金において総額で3,907円の不足金が生じたが、その不足分は学校負担とした。合宿・修学旅行等積立金に関しては、1人あたり2,444円の余剰金が生じたため、保護者に事前通知の上返金した。

ウ 教育活動について

(教育課程)

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」とことと、「生徒の希望する進路の実現」を2つの柱として教育課程を編成している。

中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中3からは、高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中3の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

(数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施)

中2のネイティブ教員による英会話の授業を継続実施した。1クラスを均等3分割、生徒11～12名に対して一人のネイティブ教員という少人数授業であり、外国語学習にとって理想的な環境である。

中3数学においては習熟度に応じた3クラス編成(標準2クラス・発展1クラス)での授業を継続実施している。

高1と高2の英語については、標準・発展の習熟度別2クラス編成、高2数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に2分割し、個人の学力に見合ったより効果的な授業を実施した。

(補習)

中学生に関しては、定期考査ごとに、成績不振者に対して英語と数学の補習

を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。これとは別に、中２・中３の英語と数学に関して、『ステップアップレッスン』という希望者補習をそれぞれ週２回ずつ行っている。

夏休みには中１～高１は１週間、高２・高３は２週間の補習を行っている。
(放課後学習サポートシステム)

「スクール TOMAS」と提携して、低～中位層を対象（希望者・有料）に自学自習のサポートシステムを２０２２年２学期より利用している。対象学年は中１～高２、教科は英語・数学・国語・理科・社会。形態としては「質問型個別指導」を基本に、オプションとして、「カリキュラム型個別指導」「AI型個別指導 atama⁺」「オンライン英会話（Native Camp）」が用意されている。

(特別活動、宿泊行事)

特別活動として、文化的・体育的・宗教的学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動、奉仕活動、探究活動を行い、心身の健全な育成を図った。

中１は６月に「イングランドの丘」（南あわじ市）への遠足を実施した。１０月には神戸市社会福祉協議会にご協力いただき、ユニバーサル体験学習を行った。また芸術文化センターで開催された「わくわくオーケストラ教室」に参加した。

中２は６月に「休暇村蒜山高原」で２泊３日の体験合宿を実施した。また、１１月には灘さくら支援学校を訪問し、生徒との交流をはかった。

中３は１０月にグランドニッコー（淡路市）にて異文化理解合宿を実施し、協働型体験プログラム「グローバルビレッジ」（LbE Japan 主催）に参加した。SDGsの学習を起点に、様々な文化的背景を持つ留学生との交流を通して、国際的視野を培養し、多様な価値観・異文化への理解を深めた。また１月にはグループに分かれて、竹中工務店・沢の鶴・シスメックス・日本銀行の４社への企業訪問を実施した。その後２月に事後学習として、振り返りのプレゼンテーションを各社の担当者を本校に招いて実施した。

高１では６月に大塚国際美術館見学を行い、キリスト教文化を体感させることができた。また、大阪・夢洲で行われた大阪・関西万博を訪れ、世界の文化や最新の技術に触れる体験をした。

高２は高１と同じく６月に大阪・関西万博を訪れた。また１０月に６泊８日のフランス修学旅行を実施した。

高３では５月に「ユートピア篠山」にて１泊２日の静修合宿を実施した。

中１～高２の各学年の静修を従来通り３学期に校内で行った。

(体育祭) ９月に従来通りの形で実施した。

(高２修学旅行)

異文化理解教育の集大成として、建学の精神であるカトリックの心に触れることを目的に２０２５年度もフランス修学旅行を実施し、パリ、リジュー、モンサンミッシェルに宿泊した。モンサンミッシェルにおいてグループＡとグル

ープBが合流し、昼食をともにした。ルーブル美術館、エッフェル塔、ベルサイユ宮殿といった観光地を訪問したほか、ベック大修道院ではミサにも参列した。

(海外研修・国内英語研修)

2020年度以降中断していた「オーストラリア交換プログラム」を再開した。また2024年度に再開した「イギリス語学研修」も引き続き行った。コリブリ(日仏高等学校ネットワーク)のフランス短期留学と受け入れも昨年度に続き実施した。

(ICT教育)

Google社の『Google Workspace』を使用した各授業での教材提示及び情報提供は浸透・定着している。Chromebookの使用頻度もさらに高まり、自宅のみならず学校においても様々な場面で積極的に活用している。また教員相互での利用率も一層向上し、朝終礼をはじめ、校務や職員会議等での諸連絡に大いに役立っている。

(探究活動)

2025年度に探究活動担当講師を迎え、希望者向けに放課後の学習プログラム「探究ラボ」を開始した。100人を超える生徒が参加登録し、「医療・保健」と「地域課題」をテーマに、個人またはグループで自ら見つけ出した課題について調査・研究を行っている。校内だけでなく大学主催のプログラムへの参加など、知的好奇心旺盛な生徒たちの意欲的な取り組みが見られる。2月にはこれまでの課題研究を発表するポスターセッションが行われた。このプログラムを通して他者への共感性やレジリエンスなど非認知能力を高め、楽しみながら主体的に学ぶ姿勢が育まれることが期待されている。

(75周年記念行事)

創立75周年にあたり、様々な記念行事が行われた。4月には小・中・高の全児童生徒と教職員がグラウンドに集い、「75」の人文字を作りドローン撮影を行った。その写真は75周年記念誌の見開きページを飾っている。10月には75周年記念講演として古居智子氏による『シドッティについて』の講演会が高1・2対象で行われ、大学図書館にてシドッティ神父の復顔像や資料の展示もなされた。11月には75周年記念式典と感謝のミサが講堂で行われた。午前の式典は、元校長であるSr. 梶川邦子先生の講話や、4人の卒業生によるパネルディスカッションと全校合唱、午後の感謝のミサは松永敦神父様司式のもと厳かに行われた。歴史の重みを感じながら未来への一步を踏み出す、思い出深い一日となった。全員に記念のおメダイと記念誌が配られた。

エ 学校評価と授業評価について

(学校評価)

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケー

ト形式で自己評価を行い、その結果を集計した（資料１）。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

（授業評価）

１学期末と２学期末に生徒による授業評価アンケートを実施した。２回のアンケートの分析報告会を３学期に業者の方からしていただき、学校としての傾向などをご指摘いただいた。

（資料１） ２０２５年度 学校評価

Ⅰ 評価項目と評価の方法

（１）評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の３分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

（２）評価の方法

評価は５段階で行い、達成度の最も高い評価を５、最も低い評価を１とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

Ⅱ 評価結果

評価項目	評価
A教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	3. 9
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	3. 8
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	4. 0
④目標とした内容が定着しているか	3. 6
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	4. 0
B校務分掌	
①担当業務が適切に処理されているか	3. 8
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	3. 6
C担任業務	
①生徒とのコミュニケーションが取れているか	4. 0
②保護者との連携がとれているか	3. 9
③学年内の連携がとれているか	3. 8
④教科担任との連絡がとれているか	3. 9

(3) 神戸海星女子学院小学校

ア 小学校広報活動と児童募集について

受験生が複数名いる幼児教室と神戸海星マリア幼稚園で、2026年入試に向けての説明会・講演会を複数回行った。また、入試後の9・10月には、幼児教室を回り、入試報告を行い、同時に1月の転編入学募集についての協力依頼をした。

12月に、第13回の「兵庫県私立小学校フェア」が兵庫県の私学11校が集まり、東急 REI ホテルで行われた。海星小の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数2クラス制の良さなどの説明を行った。初めて本校のブースに来られる方も多く、これから受験する方に説明する良い機会になった。

2026年2月に「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が行われた。参加者は多くはなかったが、本校の複数の教員が海星小について話す良い機会となった。

受験希望者に対して、4月に授業体験会を実施し、学校での説明会を5月と6月と10月と3月の4回実施した。第1回目の5月は、入学希望の保護者を対象に説明会を行い、68組の方が参加された。第2回目の6月は、入学希望の保護者を対象に礼拝朝礼を見ていただき、授業公開と児童による学校説明を行った。学校説明会の間は、園児を集め昨年度に引き続き「6年生と遊ぼう」の企画を行った。年長55組参加のうち専願47組と、昨年度より10組多かった。9月の説明会では年中以下の保護者を対象に、礼拝朝礼を見ていただき、授業公開と入試報告、6年生による学校紹介を行った。説明会の間は「1・6年生と遊ぼう」を企画し、6年生がよくお世話をし、保護者にとっても説明会に集中できたと好評であった。また、1月末には図工展を公開し、児童の作品を鑑賞してもらった。今年は、保護者にさらに海星小学校の児童の姿を見てもらうため、3月の初めに10月と同じような公開授業と学校説明会そして音楽朝礼を見ていただいた。

2025年度は、公開授業や学校説明会のチラシを1000枚、業者に依頼して作成し、各幼児教室やマリア幼稚園に送り、入学希望の方の手元に届くよう配布を依頼した。

その他の広報活動としては、9月の説明会参加者や図工展登録者、幼児教室に、クリスマスカードや本校の機関紙「かいせい」を郵送した。その他、マリア様をたたえる会、運動会、学芸会、クリスマス会など、本校の児童の活動を見ていただけるイベントを月に1回企画し案内した。同時に、学校での子どもたちの様子を見ていただくために公式Instagramの更新に努め、公式LINEで学校の情報を定期的に伝えた。この2つの取り組みは好評であった。

また、特定の幼児教室に通っている園児と保護者を対象に、本校で体験授業を3学期に2回行った。学校での体験授業は、本校の雰囲気も知っていただけのため好評であった。また、2月は学校での募集行事がなかったため、2月後半に専科体験授業を行った。

2026年入試は、50名の募集に対し56名の志願者があり、56名の合格者を出し、54名が手続きをした。入学辞退者が4名出て、現員が50名になったため、本校では初めて12月末に2次募集の試験を行い、5名が受験し、4名を合格とした。1月

には転入試験を行い、新4年2名、新3年1名を合格とした。また、海外から帰国の姉妹がいたため、2月後半に2次、編入試験を行い、新入生1名、新4年生1名を合格にした。

2026年度の児童数は、1年生55名、2年生38名、3年生53名、4年生48名、5年生55名、6年生55名、計304名となった。2026年度も、どうにか学則定員50名×6学年＝300名を確保できた。

イ 学校評価（保護者）について

毎年2月に、保護者に対して無記名で学校評価アンケートを実施している。2025年度は、225名の保護者から回答をいただいた。（回収率82％）（資料1）

今年度は、小学校北館・南館の拡張改修工事の結果、これまでより充実した環境で子どもたちは学校生活を送ることができた。その影響もあり、アンケートでは、おおむね好評価をいただいた。学習指導については、子どもたち一人一人に学習する習慣や学力向上につながるような教員研修を充実させたい。生活面では、「友だちへの思いやり」や「いじめや悩みなどの相談」について、宗教教育が基礎にある本校にとって、最も大切な部分なので、心の教育に取り組んでいく。また、あいさつや言葉遣いなどのしつけについても、教員全体で取り組んでいきたい。

(資料 2)

2025年度 学校アンケート 集計

1 学校は教育方針をホームページや保護者会等でわかりやすく伝えている。

2 個人懇談、学級通信などにより、お子さまの学校生活の様子がよく把握できる。

3 保護者が連絡したことに対して学校は適切に対応してくれる。

4 学校内の環境整備が適切におこなわれている。

5 学校は防災や防犯、事故防止に配慮している。

6 学校行事(仲良しクラブ、宗教行事、運動会、学芸会など)の頻度は適当である。

7 学校行事の内容は適切である。

8 学校行事の中でお子さまが生き生き活動できるように工夫されている。

9 学校は保護者が授業を参観する機会を十分設けている。

10 年度初めに提示された各学年の学習進度(カリキュラム)の通りに学習が進んでいる。

11 それぞれのお子さまに応じたきめ細かい学習指導が行われている。

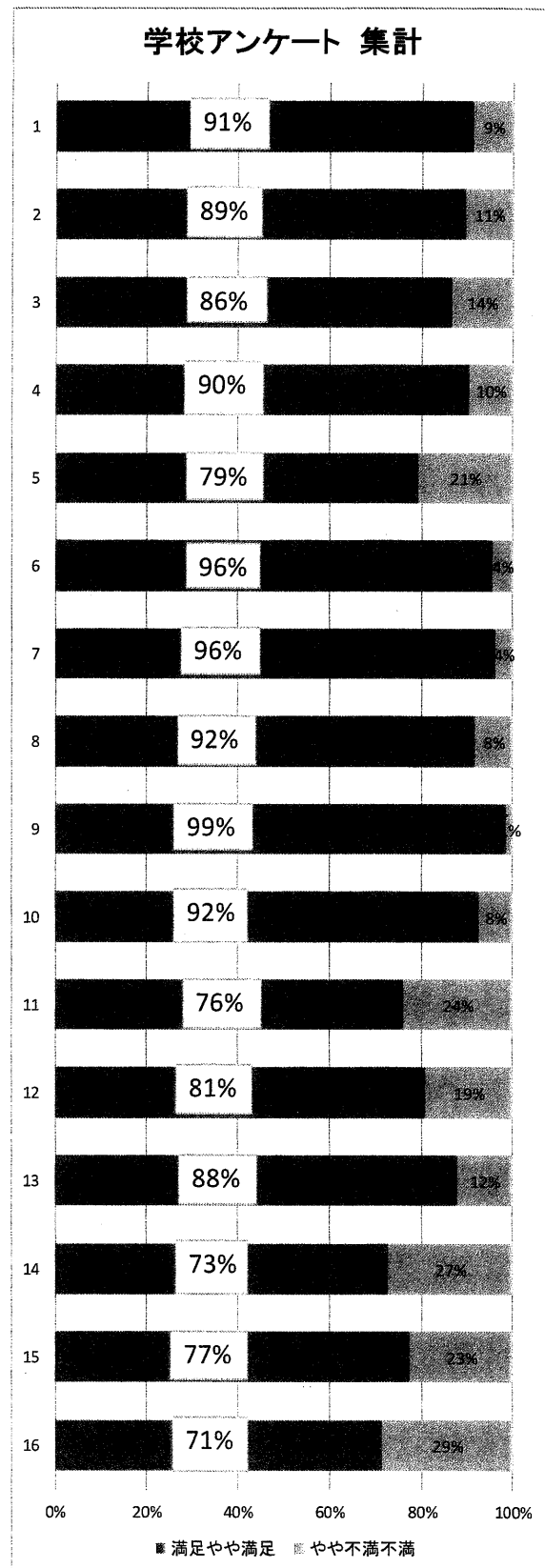
12 学習目標である「考える力」を養う指導が工夫されている。

13 学習ノート等をご覧になって、毎時間の授業での学習の足跡が残り、教師の適切な指導が表れている。

14 挨拶や言葉遣い、きまりを守るなどの躰が身につくように指導がなされている。

15 友達への思いやりなど、心を育てる指導がなされている。

16 いじめや悩みなどの相談に行き届いた指導がなされてる。



ウ 学校評価（教員）について

次に、教員による自己評価についてである。2026年度初めに昨年度の学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。結果については、職員会議で教員に周知を図った。2025年度は、Aの学習指導・生活指導では、全体的に自己評価が低く、「前後する学年との連携」「豊かな人間関係作り」の項目については、特に下がっていたので今年度の課題にしたい。Cの担任業務については、「学級経営の方針を明確にし」という項目の自己評価が下がっているため、きめ細やかな指導を心掛けていきたい。

（資料2）2025年度 学校評価（教員）

I 評価項目と評価の方法

（1）評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野と捉え、それぞれについて評価項目を設定した。

（2）評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

	評価項目	評価
A	学習指導・生活指導	
①	総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3.6
②	個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3.5
③	教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	4.0
④	設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	3.8
⑤	個々の児童の学習内容が定着しているか。	3.9
⑥	目標とした学習内容が定着しているか。	3.4
⑦	同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3.2
⑧	基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	3.6
⑨	豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	3.6
⑩	授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3.6
B	校務分掌	
①	分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	4.0
②	関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3.4
C	担任業務	
①	保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、信頼関係を築いているか。	3.6
②	学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	3.7
③	専科教員との連携が取れているか。	3.5

エ 教育について

(ア) 特色ある教育

(i) 宗教教育

全学年毎週1時間の宗教の時間や、週1回(金)の礼拝朝礼、毎日の朝礼・終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「マリア様をたたえる会」「創立記念ミサ」「クリスマス会」「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

(ii) 外国語(英語)教育

2025年度は、全校生週に3時間、うち1時間は教員3人体制で英語の授業を行った。ネイティブ教員と英語専科が主となり授業を展開、担任は児童一人一人に寄り添って支援を行った。正しく発音できているのか、正しい綴りで書けているのか、児童の理解度を図るためのチェック体制を充実させている。

(iii) 福祉教育

5年生の老人ホーム(大池サンホーム)の訪問は、7年ぶりに実施することができた。子どもたちによる手作り団扇のプレゼントが大変喜ばれた。

(iv) 「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間22時間実施した。

・1年生歓迎会	1時間
・春の遠足	6時間
・合唱コンクール	4時間
・読書祭り	2時間
・野外活動(修法ヶ原)	6時間
・校外清掃	2時間
・カルタづくり	2時間
・6年生とのお別れ会	1時間

(イ) その他の取り組み

- (i) 4月に、保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくために学級保護者会を行った。6月には日曜参観と学級保護者会を各教室で行った。9月には2日間、夏休み作品展と合わせて授業参観を行った。12月には学年保護者会を行い、2月には1～3年生は学級保護者会、4年生は誕生学の授業に続いて学年保護者会、5年生は中高の教頭先生から海星中学校高等学校の生活についての説明を聞き、学年保護者会を行った。6年生は、卒業発表の後に学級保護者会を行った。

- (ii) 学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に1回火曜日の放課後に教員の学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し共有した。また、新たに部会(宗教・生活・研究)と、教科部会の集まりを月1回持った。

学年	合宿など	場所	体験内容	2025 年度
2	学校合宿	小学校南館北館	図工室でランプづくり、マリー ホールでゲーム、プールで水遊 び、紙風船大会	1泊2日
3	校外活動	神戸市立自然の 家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチ ャーハイクなど、自然の中での 活動	1泊2日
4	校外活動	国立淡路青少年 交流の家	砂の造形、焼き板、星空の 観察 など	2泊3日
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	3泊4日
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島での民泊体験、平和祈念 公園、平和祈念資料館、ひめゆ り祈念資料館	3泊4日

(iii) 学年ごとの宿泊を伴う行事

(4) 神戸海星女子学院マリア幼稚園

ア 園児募集

(ア) 2026 年度新入園児選考結果 (2025 年 9 月実施)

- ・ 3 歳児入園
55 名応募中 55 名の合格者 (合格者内訳: つくし・弟妹 30 名、外部 25 名)
- ・ 満 3 歳児入園
37 名応募中 36 名の合格者 (合格者内訳: 弟妹 18 名、外部 18 名)
- ・ つくし組 (週二日 1 年間通う二歳児クラス)
25 名応募中 24 名の合格者

(イ) 選考方法

- ・ 3 歳児入園 …親子面接 (志望動機、問答、手遊び等)
- ・ 満 3 歳児入園…親子面接 (志望動機、問答、手遊び等) ただし、弟妹はリトミック体験
- ・ つくし組…保育体験 (リトミック)

(ウ) 広報

少子化の進行に伴い、園児獲得は依然として厳しい状況にある。このような中、本園の認知度向上と魅力発信を図り、選ばれる園となることを目的として、広報活動の充実に努めた。

25 年度における主な広報活動の実施状況は以下のとおりである。

・ 幼稚園で遊ぼう

本取り組みは、市の子育て支援の一環として未就園児とその保護者を対象に実施したものである。年間を通して計 8 回実施し、リトミックや運動遊び、お話し会等の保育活動を体験していただく機会を提供した。参加者が実際に園の雰囲気に触れることで、本園への理解と親しみを深める機会となり、広報活動としても一定の成果が見られた。

・ ホームページ・Instagram での発信

園児の日常の様子や行事の様子を、ホームページおよび Instagram を通じて継続的に発信した。写真や動画を活用することで、本園の教育内容や雰囲気を視覚的に伝えることができ、園外への情報発信の充実につながった。

・ 入園説明会・園見学会

9 月に入園説明会および園見学会を実施した。本園の特色であるモンテッソーリ保育およびキリスト教の教えに基づく保育について、教員によるモンテッソーリ保育の実践報告を行い、参加者に具体的かつ身近に伝えることができた。あわせて園舎や保育環境の見学を行い、本園の特色を直接体感していただく機会となった。

・ 卒園生の受け入れ

卒園生である小学生が学校行事等の代休日に来園できる機会を設け、継続的な関係づくりに努めた。また、ホームカミングデーに限らず日常的な受け入れを行うことで、

卒園後も本園を身近に感じられる環境づくりを推進した。これらの取り組みは、卒園生およびその保護者による口コミにつながり、広報活動の一助となっている。

以上のとおり、在園児保護者のみならず、卒園生やその保護者による聞き伝えも含め、多方面からの広報効果が見られた。今後もこれらの取り組みを継続・充実させ、さらなる園児確保に努めていく必要がある。

イ 教育・保育活動の充実

(ア) キリスト教の教えを基にした保育

・ 神様のお話

本園において大切にしている宗教教育の一環として、「神様はいつもそばにいて、私たちを見守ってくださっている」という実感を育むことをねらいに、「神様のお話の時間」を実施した。A組（年長児）を対象に、各クラス年間10回を目安に計画的に行った。内容としては、天地創造やイエス・キリストの誕生に関する話を中心に提起し、子どもたちの理解を深めるとともに、クリスマスの聖劇へとつなげることができた。日々の保育の中で継続的に取り組むことにより、子どもたちが神様の存在を身近に感じる姿が見られ、本園の教育の根幹として大切にすべき実践を今年度も着実に行うことができた。

・ お誕生日会

子どもたち一人ひとりの「生まれてきた喜び」と「愛されている存在であること」を実感する機会として、お誕生日会を実施した。可能な限り誕生日当日に合わせて個別に行い、その日を特別なものとして大切に扱った。また、年長児については保護者とともに祝いする機会を設け、家庭と園が共に成長を喜び合う場とすることができた。こうした取り組みを通して、子どもたちの自己肯定感や安心感の育ちにつながる姿が見られた。

・ こども基金

世界中の様々な困難な状況にある子どもたちに思いを寄せ、献金を行う「こども基金の日」を今年度も継続して実施した。当日は「おにぎりの日」とし、日々の生活を見つめ直す機会として位置付けて取り組んだ。

一方で、取り組みが次第に形式的になり、その本来の意義や願いを子どもたちに十分に伝えきれていない点が課題として明らかとなった。

この反省を踏まえ、次年度（26年度）においては「基金」という形は見直すこととしたが、その根底にある「他者に思いを向ける心」や「祈る心」を育てるという意義は引き続き大切にしていける。今後は、より子どもたちの実感を伴う形でこれらの価値を伝えていくため、内容や方法の工夫を図っていく必要がある。

・ 聖劇

本園におけるキリスト教保育の集大成として、全園児参加による聖劇を実施した。25年度においても全8クラスが取り組み、イエス・キリストの誕生を祝うことを通して、クリスマスの意味を深く考える機会とすることができた。

聖劇の実践を通して、子どもたちは自らが愛されている存在であることに気づき、他者への思いやりや生き方について考える姿が見られた。本取り組みは毎年大切に継続しているものであり、今年度もその意義を十分に踏まえ、丁寧に実施することができた。また、保護者からも高い評価を得ており、本園の教育の特色を示す重要な行事となっている。

・感謝の集い

A組（年長児）を対象に、「感謝の集い」を実施した。卒園を控えた子どもたちが、生まれてきた喜びを改めて感じるとともに、これまで見守ってくださった神様や、愛情をもって育ててきた家族への感謝の気持ちを表す機会となった。

当日は「神様のお話の時間」として保護者にも参加していただき、子どもとともに祈りの時を共有することができた。こうした取り組みを通して、家庭と園が共に子どもの成長を喜び合う場となり、深い学びと感動を伴う時間となった。

本行事も長年大切に継続してきたものであり、今年度もその意義を十分に生かした実践となった。

（イ）モンテッソーリ教育

本園の保育の軸として、モンテッソーリ教育に基づく実践を今年度も継続して行った。「子どもは自ら育つ力を備えている」という子ども観を全教職員で共有し、日々の子どもへの関わり方や援助の在り方について共通理解を図りながら保育にあたった。

また、子どもの主体性を引き出すための環境構成に努め、それぞれの発達や興味関心に応じた活動が展開されるよう工夫を重ねてきた。その結果、子どもたちが自ら選び、集中して取り組む姿が見られるなど、本教育のねらいに沿った成長が認められた。

さらに、教員の専門性向上を目的として、モンテッソーリ教師資格（ディプロマ）の取得を推進し、専門的知見を有する教員による保育の充実を図った。

一方で、本園の根幹をなす本教育方針については揺るぎないものであるものの、社会状況や子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、その実践内容をいかに深化・充実させていくかが今後の課題である。引き続き、理論と実践の両面から見直しと改善を図り、より質の高い保育の実現に努めていく必要がある。

（ウ）2025年度の主な行事

〈1学期〉入園の日・親子遠足・プール遊び・キャンプA組（宿泊）

〈2学期〉スポーツデー・園外保育・七五三・聖劇

〈3学期〉園外保育・感謝の集い・卒園の日

・その他、避難訓練、内科検診、保育参観、懇談会

上記の行事を予定通り、実施した。

（エ）教員研修

教員の資質向上を目的として、各教員が自己研鑽に努めるよう推進するとともに、外部研修への積極的な参加を促した。西宮市私立幼稚園連合会主催の研修会や、西宮市幼稚園・保育園・認定こども園・小学校連携推進事業「つながり」による研修会には、身近な保育課題に即した内容が多く、可能な限り参加した。また、カトリック大阪高松大

司教区幼児教育協議会主催の年次研修会や年度末の保育大会にも参加し、専門性の向上に努めた。

園内研修においては、日常の保育やモンテッソーリ教育、特別支援教育等をテーマに「分かち合い」を行い、教員同士が考えや思いを共有することで、保育実践の振り返りと改善につなげた。

時間的制約のある中ではあったが、可能な限り研修の機会を確保し、教員の学びを支える体制づくりに努めた。

さらに、25年度は「つながり」事業における公開保育を実施し、多くの参観者を受け入れた。本園の保育を外部の視点から見つめ直す貴重な機会となり、保育内容の改善や質の向上に向けた示唆を得ることができた。

ウ 学校評価

保護者アンケートを実施し、マリア幼稚園の成果と課題を明確化した。

【学校評価を受けて】

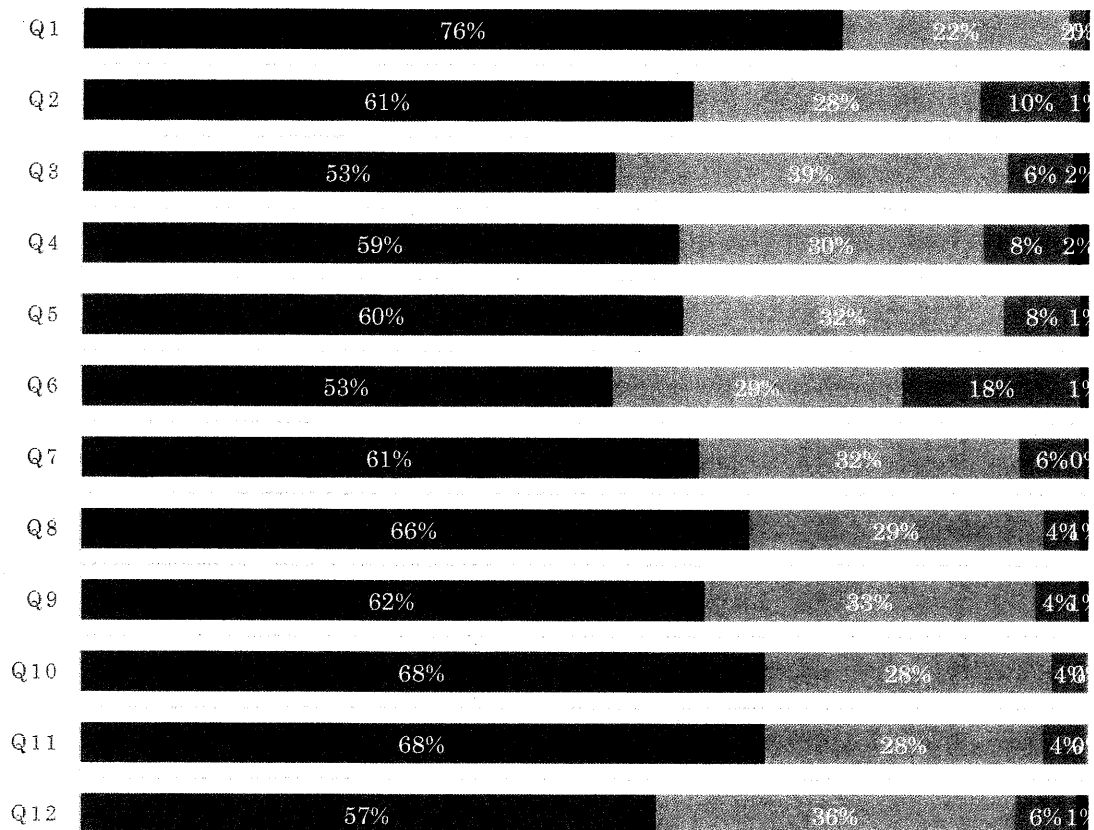
本年度に実施した保護者アンケート（全12項目・4段階評価）を分析した結果、すべての項目において肯定的評価（A・B）が8割以上となり、本園の保育内容および運営全般について高い評価を得ていることが確認された。特に、「子どもが幼稚園を楽しみにしている」（98%）、「教員が一人ひとりに応じた保育を行っている」（95%）などの項目から、子どもが安心して過ごせる環境と教職員の丁寧な関わりが評価されていることがうかがえる。また、安全面や生活を大切にした保育、さらにはキリスト教保育やモンテッソーリ教育といった本園の教育的特色についても高い評価を得た。

一方で、子育て支援に関する項目は相対的に評価が低く、取り組みの意義や内容が十分に伝わっていないことが課題として明らかとなった。また、保護者同士の関わりや園への参画、教育理念の理解についても、さらなる工夫の必要性が示唆された。

今後は、これまでの成果を踏まえつつ、情報発信や対話の機会を充実させ、保護者との相互理解を一層深めるとともに、本園の教育方針や保育の意図がより具体的に伝わるよう改善に努めていく。

学校評価（保護者）

■A強く思う ■Bどちらかといえばそう思う ■Cあまりそう思わない ■D全くそう思わない



- Q1. 子どもは幼稚園に行くことを楽しみにしている。
- Q2. 子どもは、家で幼稚園のことや先生のことを話している。
- Q3. 幼稚園は、保護者同士が関わり合える場になっている。
- Q4. 幼稚園はけがをしたときや問題が起きたときなど、丁寧にわかりやすく状況を伝えている。
- Q5. 幼稚園は、子どもの興味や関心、育ちにに応じた園行事を実施している。
- Q6. 幼稚園は、預かり保育や園庭開放など、積極的に子育て支援を行っている。
- Q7. 幼稚園は、キリスト教保育の考え方を保護者と共有している。
- Q8. 幼稚園はモンテッソーリ教育の考え方を共有し、園児一人ひとりが自主的に活動できる保育をしている。
- Q9. 教員は、子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や特性などに配慮しながら保育している。
- Q10. 幼稚園は、建物や遊具などを、子どもに合わせた安全対策をしている。
- Q11. 幼稚園は、子どもの食に対する関心を育てている。
- Q12. 幼稚園は参観・懇談会等を積極的に行い、園の様子を適切に伝えている。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

ア 貸借対照表関係

(ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位 千円)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	10,265,107	1,015,052	10,040,224	9,860,330	9,634,871
流動資産	2,431,503	2,469,365	2,158,426	1,843,248	1,760,973
資産の部合計	12,696,610	12,484,417	12,406,650	11,911,578	11,395,844
固定負債	718,219	655,015	648,201	542,766	465,490
流動負債	446,950	386,417	448,962	418,303	490,931
負債の部合計	1,165,169	1,041,432	1,305,163	1,169,069	956,421
基本金	12,210,732	12,075,050	12,091,882	12,405,047	12,518,453
繰越収支差額	△679,291	△632,066	△990,396	△1,662,540	△2,079,030
純資産の部合計	11,531,441	11,442,984	11,101,486	10,742,507	10,439,423
負債及び純資産の部合計	12,696,610	12,484,416	12,406,650	11,911,577	11,395,844

(イ) 財務比率の経年比較

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
運用資産余裕比率	2.7	2.7	2.1	2.0	2.2
流動比率	544.0	639.0	480.8	440.6	358.7
総負債比率	9.2	8.3	9.0	8.2	8.4
前受金保有率	905.4	1,027.9	1,057.1	899.3	899.3
基本金比率	95.4	95.8	96.2	100.7	97.1
積立率	93.8	94.3	87.8	77.9	73.3

イ 事業活動収支計算書関係

(ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	1,442,243	1,357,433	1,269,034	1,175,256
	手数料	11,400	10,515	10,020	7,994
	寄付金	10,722	10,678	9,528	21,685
	経常費等補助金	526,096	505,934	480,808	439,300
	付随事業収入	12,306	13,323	14,357	15,523
	雑収入	80,713	40,213	93,429	45,988
	教育活動収入計	2,083,480	1,938,096	1,877,176	1,705,746
	事業活動支出の部				
	人件費	1,334,670	1,286,453	1,453,614	1,265,891
	教育研究経費	659,775	692,177	775,244	768,800
	管理経費	108,004	104,443	94,497	69,521
	徴収不能額等	83	1,803	0	0
	教育活動支出計	2,102,532	2,084,876	2,323,355	2,104,212
	教育活動収支差額	△19,052	△146,780	△446,179	△398,466
教育活動外収入	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	43,758	58,481	52,993	48,463
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0
	教育活動外収入計	43,758	58,481	52,993	48,462

動 外 収 支	事業活動支出の部					
	借入金等利息	2,806	2,591	2,376	2,161	1,946
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	2,806	2,591	2,376	2,161	1,946
	教育活動外収支差額	40,952	55,890	50,617	46,031	44,468
経常収支差額		21,900	△90,890	△395,562	△352,165	△247,778
特 別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	371	0	0
	その他の特別収入	5,167	4,234	80,290	25,951	21,280
	特別収入計	5,167	4,234	80,661	25,952	21,280
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	615	1,801	26,597	32,765	568
	その他の特別支出	0	0	0	0	76,019
	特別支出計	615	1,801	26,597	32,766	76,587
	特別収支差額	4,552	2,433	54,064	△6,814	△55,308
	基本金組入前当年度収支差額	26,452	△88,457	△341,498	△358,979	△303,086
基本金組入額合計		△79,818	△64,637	△316,832	△568,165	△113,406
当年度収支差額		△53,366	△153,094	△658,330	△927,144	△416,491
前年度繰越収支差額		△628,885	△679,291	△632,066	△990,394	△1,662,539
基本金取崩額		2,960	200,319	300,000	255,000	0
翌年度繰越収支差額		△679,291	△632,066	△990,396	△1,662,538	△2,079,030
(参考)						
事業活動収入計		2,132,405	2,000,811	2,010,830	1,780,159	1,763,061
事業活動支出計		2,105,953	2,089,268	2,352,328	2,139,138	2,066,146

(イ) 財務比率の経年比較

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費率	62.7	64.4	75.3	72.2	72.5
教育研究経費比率	31.0	34.7	40.2	43.8	36.8
管理経費比率	5.1	5.2	4.9	4.0	4.9
事業活動収支差額比率	1.2	△4.4	△17.0	△20.2	△17.4
学生生徒等納付金比率	67.8	68.0	65.7	67.0	64.3
経常収支差額比率	1.0	△4.6	△20.5	△20.1	△14.2

ウ 資金収支計算書関係

(ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

収入の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金収入	1,442,244	1,357,433	1,269,034	1,175,256	1,120,976
手数料収入	11,400	10,515	10,020	7,994	13,474
寄付金収入	10,722	10,678	9,528	21,685	22,517
補助金収入	526,096	505,934	480,809	439,300	457,361
資産売却収入	0	0	305,621	0	500,000
付随事業・収益事業収入	12,305	13,323	14,357	15,523	18,154
受取利息・配当金収入	43,758	58,481	52,993	48,463	46,413
雑収入	80,713	40,213	93,429	45,988	83,150
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	148,230	139,944	126,083	113,619	96,428

その他の収入	92,898	287,701	567,191	1,092,772	64,880
資金収入調整勘定	△265,876	△175,149	△301,996	△184,766	△196,497
前年度繰越支払資金	1,173,727	1,342,009	1,438,482	1,332,851	1,021,774
収入の部合計	3,278,833	3,589,814	4,145,303	4,236,175	3,248,629
支出の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費支出	1,339,475	1,291,032	1,407,098	1,317,996	1,284,953
教育研究経費支出	399,771	447,797	522,080	494,442	355,127
管理経費支出	103,747	100,017	89,796	68,689	83,743
借入金等利息支出	2,806	2,591	2,376	2,161	1,946
借入金等返済支出	53,330	53,330	53,330	53,330	53,330
施設関係支出	16,573	181,903	561,229	548,472	17,381
設備関係支出	14,675	18,321	48,153	77,686	44,031
資産運用支出	119	121	200,119	501,795	97,592
その他の支出	90,649	94,876	74,182	148,926	111,999
資金支出調整勘定	△84,321	△38,655	△145,912	△101,435	△123,269
翌年度繰越支払資金	1,342,009	1,438,482	1,332,850	1,021,774	1,321,796
支出の部合計	3,278,833	3,589,815	4,145,301	4,236,175	3,248,629

(イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較 (単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,081,340	1,932,802	1,876,722	1,705,055	1,694,933
教育活動資金支出計	1,842,993	1,838,846	2,018,974	1,881,129	1,723,822
差引	238,347	93,956	△142,202	△176,074	△28,890
調整勘定等	△30,280	△2,959	32,673	△9,841	△31,184
教育活動資金収支差額	208,067	90,996	△109,529	△185,915	△60,074
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	4,756	4,027	280,527	625,846	20,698
施設整備等活動資金支出計	31,248	200,225	809,382	1,026,158	61,412
差引	△26,492	△196,198	△528,855	△400,312	△40,714
調整勘定等	476	△828	△73,591	56,248	10,946
施設整備等活動資金収支差額	△26,016	△197,026	△602,446	△344,064	△29,768
小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）	182,052	△106,029	△711,975	△529,979	△89,842
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	66,676	269,491	698,135	379,406	552,610
その他の活動資金支出計	80,446	66,959	91,791	160,504	162,746
差引	△13,770	202,502	606,344	218,902	389,864
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△13,770	202,502	606,344	218,902	389,864
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	168,282	96,473	△105,631	△311,076	300,022
前年度繰越支払資金	1,173,727	1,342,009	1,438,482	1,332,850	1,021,774
翌年度繰越支払資金	1,342,009	1,438,482	1,332,850	1,021,774	1,321,796

(ウ) 財務比率の経年比較

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動資金収支差額比率	10.0	4.7	△5.8	△10.9	△3.5

(2) その他

ア 資産運用の状況

資金運用内規（平成25年7月1日施行）に則り、以下の通り資産運用を行う。

目的

資産運用の果実及び差益をもって本学院の教育研究の発展に資すること

運用目標

特段の数値目標は定めないが、安全性を第一とする。

運用方針

- (ア) 安全性を第一とし、流動性を考慮し、かつ有利に運用することを原則とする。
- (イ) リスク分散を重視し、運用銘柄や運用期間については、分散することを原則とする。
- (ウ) 資産運用にあたっては、経済情勢や市場リスクに関する情報収集に努め、適切に管理するものとする。
- (エ) 運用すべき期間及び額については、経常的資金需要や施設設備整備計画に支障のないように管理するものとする。

運用体制及びガバナンス体制

- (ア) 金融商品の購入及び売却については理事長の承認を得なければならない。
- (イ) 理事長は法人事務局に資金運用委員会を設置し、本委員会が理事会によって承認された資金運用方針に則り、金融商品の購入及び売却を行うことにより、本委員会に資金運用の実務を委任するものとする。
- (ウ) 資金運用委員会における金融商品の購入及び売却についての意思決定は、構成委員の全員一致を原則とする。
- (エ) 資金運用委員会は、資金運用について、常務理事会に対して月一回、理事会に対して開催毎に、直近の状況を文書にて、報告しなければならない。

本年度の運用概況

運用目的ごとの貸借対照表計上額（2026年3月31日時点）

(ア) 流動資産

現預金	1,321,796千円
有価証券	244,541千円
生徒預かり資産	110,079千円

(イ) 固定資産

退職給与引当金特定資産	255,660千円
施設設備引当特定資産	2,400,000千円
第3号基本金引当特定資産	500,000千円
合計（ア+イ）	4,832,075千円

有価証券の状況

(単位 円)

区分	発行体	件数	帳簿価額	時価	計上科目
普通債券	公債・国内金融機関・事業会社	15	1,489,045,000	1,292,452,000	引当特定資産 /有価証券/生徒費預り金
	外国金融機関	9	800,000,000	785,443,000	
仕組債券	国内金融機関	1	100,010,000	78,980,000	
	外国金融機関	11	1,099,152,000	971,352,000	
合 計		36	3,488,207,000	3,128,227,000	

運用資産による収益

(単位 円)

受取利息・配当金	金 額
第3号基本金引当特定資産運用収入	5,542,244
その他の受取利息・配当金	40,871,104
合 計	46,413,348

イ 学校債の状況

起債していない。

ウ 寄付金の状況

主な寄付金の使用実績等

(単位 千円)

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
一般寄付金	小中高 卒業生 保護者(100年募金)	4,830	
一般寄付金	小学校 卒業生	4,148	
一般寄付金	高中小 父母の会	2,000	
一般寄付金	高中小 卒業生徒・児童	3,640	
一般寄付金	大学・短期大学 卒業生	1,108	
特別寄付金	小学校 卒業生	18	図書購入
特別寄付金	大学・短期大学 同窓会	600	学生支援費
特別寄付金	幼稚園 後援会	2,723	教育補助
特別寄付金	幼稚園 保護者	3,450	施設設備拡充
合 計		22,517	

エ 補助金の状況

主な補助金の内容、使用実績等

(単位 千円)

	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	合計
国庫補助金(教育)	6,777	0	145	0	0	6,922
摘要	授業料等減免費交付金		理科教育設備整備			
国庫補助金(施設整備)	0	3,163	3,163	4,220	4,922	15,468
摘要		ICT教育設備整備	ICT教育設備整備	ICT教育設備整備	施設整備	
地方補助金(教育)	38	124,660	139,032	113,446	56,374	433,550
摘要	ふるさと納税	経常経費他	経常経費他	経常経費他	経常経費他	
その他補助金(教育)	30	35	35	5	1,316	1,421
摘要	物価高に対する食の支援事業	人権教育・研修会他	人権教育・研修会他	研修会	緊急修繕・ICT設備	
合計	6,845	127,858	142,375	117,671	62,612	457,361

オ 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和7年度、小学校は収容定員を充足したものの、幼稚園及び中高では定員未充足の状態が継続しておりより積極的な広報活動ほかの取り組みが必要な状況。

財務面では事業活動収支が4期連続でマイナスとなり、早期の黒字化が求められる。

学生生徒等納付金は学費値上げにより前年度比+54百万円となり底を打った。

今後は少子化の中、入学希望者数を如何にして増加させるかが最も肝要となる。

4 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用

状況の概要

（１）関係する決議の概要

令和6年11月26日開催の理事会にて「内部統制システム整備の基本方針」について審議し承認を得た。

（２）体制整備及び運用状況の概要

「内部統制システム整備の基本方針」（別紙）として以下の事項につき体制整備した。

ア理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

イ損失の危険の管理に関する規程その他の体制

ウ理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

エ職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

オ監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

附属明細書

該当事項はありません。